



刺所

十日之書翰未備

柳亭平、多塔、

老兄、近時佳子侯

之、報、由、外、子、流

之、係、却、也、何、何

書、之、有、可、新、成

信、者、近、之、平、支、那

の、地、況、大、安、由、按

知、中、了、老、兄、了

夫、之、少、多、也、何、を、尊、器

南、支、那、一、般、之、備



夫と云ふは、何れを言ふ哉  
南支の取一級、随  
は、排外主義の空  
気は、大に盛んを達し  
随つて革命軍に對する  
同情、考ふる名外  
に、<sup>程</sup>あつて、革命軍  
革命の時、決つたもの指  
日本及び對支支那  
政府の革命志士一  
般の態度と、此の如く  
と、この如き、南支  
一帶の人心が痛く  
日本の信頼する傾向  
と、<sup>来</sup>有る、此の如く、  
日支の支支上、概況

日本に信頼する傾向  
と有<sup>来</sup>しむる事、今迄の  
口文と文と上、概況  
すべからざる事と存  
美秋<sup>年</sup>と英公使<sup>増</sup>  
書世凱の返書と支  
持する傾向然るに  
少くは苦みしく、事  
の人心、排英の風潮  
と起したるは、西遊者  
ある事、其の者あり、  
最近一例と如く、  
上海、目下三十餘名の  
旧全権、其の亡命、改  
し、其の如く、其の方概  
て、其の事、其の事、其の事

しちりしはるき ぢるる方概  
元年事申すも 亦の三折  
この知友、一して 既六  
上海、二書行せし 中華  
新報(五民堂) 時事  
新報(其是堂) 日喜  
龍りてふあふの 瓦橋  
と吐き排表の 風流  
坂次海舟か ぢるり  
安芸の 一園日 ぢる  
わねて 晩冬の ぢるし  
節はち 盛んに 排表編  
と直流し 今と ぢるの  
多原成印と ぢる改  
村と 剣さして 時ハ  
牙一と 英人の ぢる力  
長江一帯 ぢる一掃

長江一帯より一掃  
して凡よの華人の有  
き利権と代つてし  
りやう共々ぶし  
酒席に於るの嗜  
と此の事か指り  
たら方め抑か少  
の言を述べし  
の権に見るべき  
少くは之の間に排  
外主義の現れ  
の強うある威付と  
親取被取の日本  
政府の従来の方針  
と一貫して對支の  
と事なるに於て  
可き成功と希望

と一貫して對支政策  
と進つたに於てハ驚  
々可き成功と立脚す  
る事可くとも少くは

確信政府は此  
際内閣の動搖支  
更之考を待て此の  
事あり世一逆の大如時

概世界的交結の  
欠く我々支那に對す  
る大問題と解す殊に  
抑抑生々を歸ん

又牛柄、依凡、各地  
方面、<sup>家</sup>露漢、<sup>丁</sup>七甲  
ハ毎場休戦云々の

復た其の由若らく  
南支の危分とあり

復た其の由若く  
南の島々分ちて少く  
解し解しはさるゝ人  
況と被るゝ南島  
表の封まゝ威信は  
強んと存とて道し  
表の肉と喰ひんと  
よて思ひみせし  
中、持合ふし表か  
多利と絶對の地獄也  
<sup>と云</sup> 此の飛ぶも中  
の人の知ては表  
と相判しはし  
序と被るゝ可く  
重考の重人命軍か  
思ふ所は、若く表せ  
を以て日々とて常

思ふ所程の書に成せさ  
を以て日命より之を御  
のるを遂に危候とあり  
可れども常軍の着  
順流に世に成れば一  
スリ一にして方から  
地帯といふ所のあり  
字より堅固と云ふ  
しつあ<sup>事</sup>現あり  
勿論の度と云ふ中  
の言をえ、随分と  
あり二月程早く  
表を飾りあはせ  
事、情あり、随  
資、其も七平洋  
傷の跡あり、  
未だ先から  
お立<sup>表</sup>衣となし、  
於、



未だ定んからず中

相立表表となし於

の重なるもの今

古事評王於て新

其ありて重なる

しつゝまうてた

長江一帯の流

たつてきた物

の如き古事評

七朝の如き、

しつゝある

最近近安

最近近安

今知多の

微し物

但永走

流中

流中

但永走（先所傳の都府より）  
都府始定

流中（流中）の勢あり人（人）別念

日者（日者）より十餘年

形新と作の海如

より（より）運（運）と知と長江

の勢より（の勢より）く活潑

あり（あり）の素（素）より（より）長

江の大勢接あり可

く他因下より於ては

湖南平湖州の國道

成（成）人より（人より）て雲光の

革命軍とを（を）改（改）し

数日中より西湖の如

く立（立）て見（見）るより（より）可

臨刻時あり（あり） （臨其美六浙江）

之を見たりと云ふ可く  
陳其美の浙江  
の之を以て  
三月七日の大地口

其の定りしものあり  
下る馮玉祥の張作  
の徒の志の若くは  
し其の字は先づ  
し其の踏踏といふ  
純の志の先づ  
の移の推すといふ  
はく袁世凱の股  
の士多入る離散し  
力なき持脚なき  
軍の兵士閉志なき  
買収といふ名を  
革命といふ名を  
しつあるも失敗の

買収と信二君と露けり  
革命と鎮一卿とんと  
しつあつる失敗の君  
鏡と見んかめの神威  
鬼より申す今々の  
世のこの来かすめは  
こころ支那の人心  
買らるる進歩の  
の人心と捨たは  
偉大なる成功と  
きつとるが勢  
海と助長し新政  
村の建設と見ん  
ふりきり世の政  
と同時の日本の  
飛立ち陸の  
力の満ちるる何物

飛ち陸のちけり勢  
力い満ちて何物  
も動と平らもの名  
おらん此の時我々  
五の松とて其の  
東の河をわき垣らん  
向とて命か来り可  
き支の那の新故力を  
押しつゝ支の那の  
人心の極端を洞交  
せし<sup>発</sup>時、波せん<sup>新</sup>成  
海新の戻来の好乘  
え針を積極的に  
運用して其の物象  
道を物とせん<sup>新</sup>らん  
そのと知生とて其  
先の家康と唐紙佩

道を助さんせふらん  
のりこと切生ふ世の  
先の家康の唐紙風  
但度昔甘言他の高代  
の協力カカおと防心後  
悔と悔とに彼世よ  
心理もい様、他  
のり、強硬、主張  
のり、強硬、主張  
目下ち地三日奉人の  
ひまを一人も指さず  
二この高人の政論の  
人あつらひするに  
氏十年中、物産  
星わさる長江の風  
雲も名と先んらる事  
ありあり

二三の高人の改稱の

人ありのありの 柏文の封

氏十年中の物産

星水より長江の風

雲七の島と先んて事

ありありの

旅のまゝの守完の件

とるものやあるもの

廣あつたものと告げ事

何ふの古配の事

有りありの

館の後の便の事

二月 旬の事

十月 物

海 舟

生目 仁 見

物 事

何子... 頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃... 頃... 頃...

頃... 頃... 頃... 頃... 頃...



東京事務山下町一

英文通社

望月小太郎様

必親展

松本秀子

支那上海西華德路六號

東海旅館

電話一一一九番

覆

二月十日